

伊賀市人口ビジョン（案）

2025（令和7）年2月
伊賀市

第1章 はじめに	1
----------	---

第2章 伊賀市の人口動向

(1) 総人口	3
(2) 出生・死亡、転入・転出	4
(3) 人口ピラミッド	5
(4) 人口移動	
①年齢階級別	6
②地域ブロック別	7
③近隣自治体との関係	8
(5) 合計特殊出生率	9
(6) 若年（20～39歳）人口	10
(7) 未婚率	11
(8) 外国人住民人口	13
(9) 産業構造別人口	17
(10) 通勤・通学流動	19

第3章 伊賀市の人口展望	20
--------------	----

第1章 はじめに

2014（平成26）年にまち・ひと・しごと創生法が施行され、地方創生の取り組みが本格的に始まってから10年が経過しました。

国では、現在、令和4年12月23日に閣議決定された「デジタル田園都市国家構想総合戦略」（令和5年12月26日改訂）に基づき、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指し、デジタルの力を活用しつつ、地域の個性を生かしながら地方の社会課題解決や魅力向上の取組が進められています。

地方自治体においても、人口の現状及び将来の見通し（人口ビジョン）を示したうえで、「地方版総合戦略」を定めるよう努めなければならないこととされています。

伊賀市では、これまでから「総合戦略」は「総合計画」に包含させ、人口減少対策をはじめとするまちづくりを計画的かつ一体的に進めてきたところです。

今回、新しい総合計画の策定にあわせて、市の「人口ビジョン」についても必要な見直しを行うものです。

日本全体の動向に違わず、伊賀市においても人口減少の進展は著しく、1995（平成7）年に10万人を超えた人口が、2010（平成22）年には再び10万人を下回り、その後も減少を続けています。

人口は、主に自然動態（出生、死亡）と社会動態（転入、転出）の増減により推移しています。今後も引き続き活力あるまちを維持していくために、人口動向を分析したうえで、国の将来推計などを踏まえ、伊賀市の将来人口を展望します。

なお、人口に関連する数値及び図表データ等は、特段の記載がある場合を除き外国人住民を含むものとします。

●人口を展望するうえで必要となる「出生率」に関する用語について

合計特殊出生率	15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が、仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子どもの数に相当する。
人口置換水準	長期的にみて人口が増加も減少もしない均衡した出生水準（合計特殊出生率）。若年期の死亡率が低下すると、この値は減少する。社人研の指標では、「静止粗再生産率」と表記されている。現在の日本の人口置換水準は2.07。
国民の希望出生率	若い世代の結婚・子育てに関する希望が実現した場合に見込まれる出生率。国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、この数値を「1.8程度」とし、我が国においてまず目指すべきは、出生率の向上を図ることとしている。

●日本の人口の推移

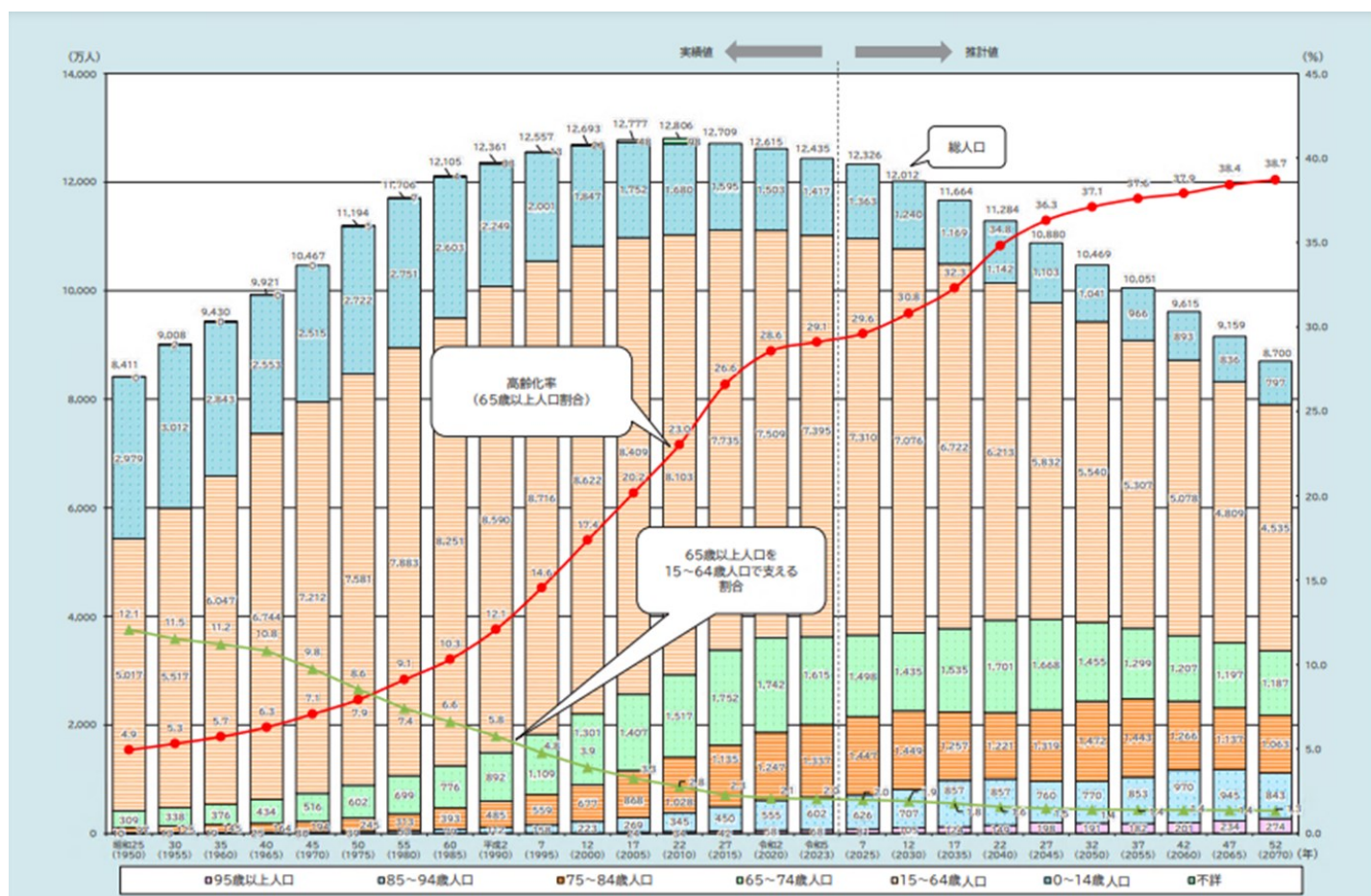
国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）「日本の地域別将来推計人口」（令和5（2023）年推計）」（出生中位（死亡中位））によると、2070（令和52）年の総人口は約8,700万人になると推計されています。

日本の将来推計人口とは、出生、死亡、国際人口移動について、実績値の動向をもとに仮定を設け、日本全域の将来の人口規模、男女・年齢構成の推移について推計を行ったものです（対象は外国人を含む日本に3か月以上にわたって住んでいる、または住むことになっている総人口）。

【推計の方法】

・国際的に標準とされる人口学的手法にもとづき、人口変動要因である出生、死亡および国際人口移動に関連する統計指標の動向を数理モデル等により将来に投影する方法で推計。

図表1 日本の人口と高齢化（推移と推計）



資料：棒グラフと実線の高齢化率については、2020年までは総務省「国勢調査」（2015年及び2020年は不詳補完値による）、2023年は総務省「人口推計」（令和5年10月1日現在（確定値））、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果。

（注1）2015年及び2020年の年齢階級別人口は不詳補完値によるため、年齢不詳は存在しない。2023年の年齢階級別人口は、総務省統計局「令和2年国勢調査」（不詳補完値）の人口に基づいて算出されていることから、年齢不詳は存在しない。2025年以降の年齢階級別人口は、総務省統計局「令和2年国勢調査 参考表：不詳補完結果」による年齢不詳をあん分した人口に基づいて算出されていることから、年齢不詳は存在しない。なお、1950年～2010年の高齢化率の算出には分母から年齢不詳を除いている。ただし、1950年及び1955年において割合を算出する際には、（注2）における沖縄県の一部の人口を不詳には含めないものとする。

（注2）沖縄県の昭和25年70歳以上の外国人136人（男55人、女81人）及び昭和30年70歳以上23,328人（男8,090人、女15,238人）は65歳以上の人口から除き、不詳に含めている。

（注3）将来人口推計とは、基準時点までに得られた人口学的データに基づき、それまでの傾向、趨勢を将来に向けて投影するものである。基準時点以降の構造的な変化等により、推計以降に得られる実績や新たな将来推計との間には乖離が生じうるものであり、将来推計人口はこのような実績等を踏まえて定期的に見直すこととしている。

（注4）平成12年までは、85歳以上をまとめて「85歳以上」の区分としている。

（注5）四捨五入のため合計は必ずしも一致しない。

第2章 伊賀市の人口動向

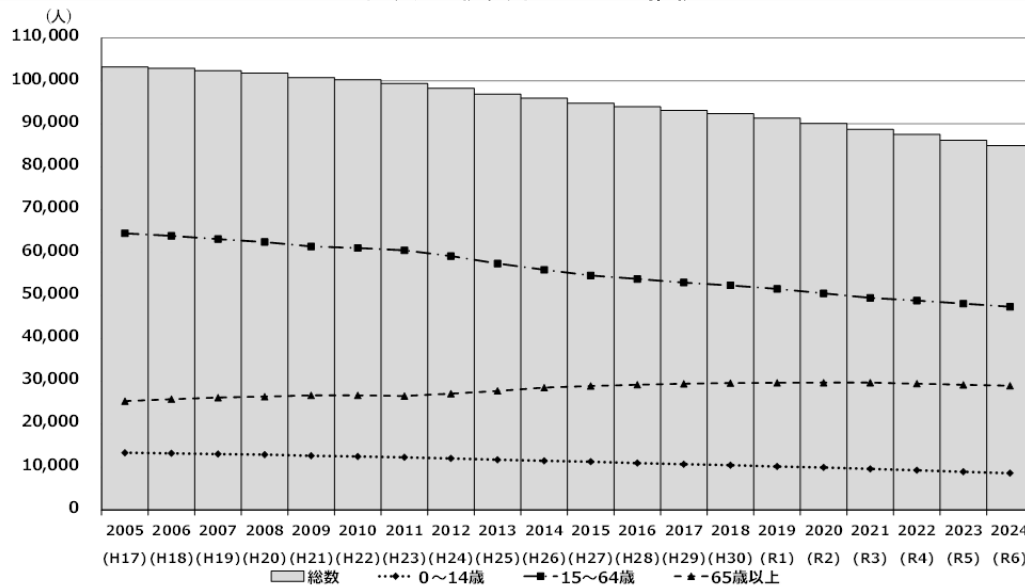
(1) 総人口

図表2, 3, 4は、合併後の伊賀市の人口の推移です。

伊賀市誕生以来、現在まで人口減少が続いており、合併当初100,000人を超えていた伊賀市の住民基本台帳人口は、2024（令和6）年9月末現在、84,936人にまで減少しています。

年齢区分別にみると、年少人口や生産年齢人口が大きく減少しています。また、これまで増加してきた老年人口も、2020（令和2）年を境に減少局面に入ったことがうかがえます。

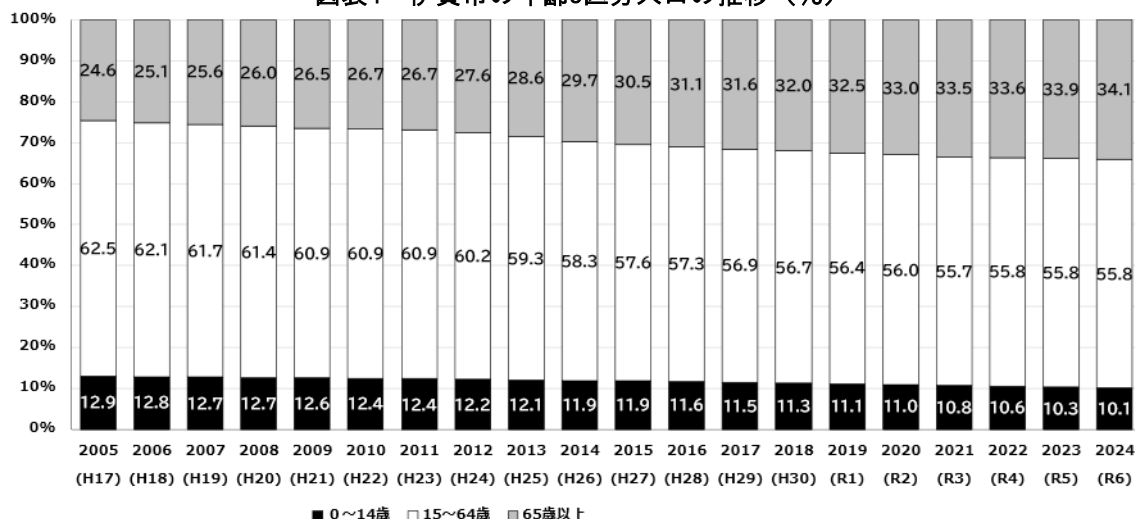
図表2 伊賀市の人口の推移



図表3 近年の伊賀市の年齢3区分人口の推移（人）

	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)	2024 (R6)
総人口	103,227	100,288	94,847	90,097	84,936
年少人口 (0～14歳)	13,356	12,478	11,276	9,924	8,583
生産年齢人口 (15～64歳)	64,488	61,080	54,652	50,484	47,383
老年人口 (65歳以上)	25,383	26,730	28,919	29,689	28,970

図表4 伊賀市の年齢3区分人口の推移（％）



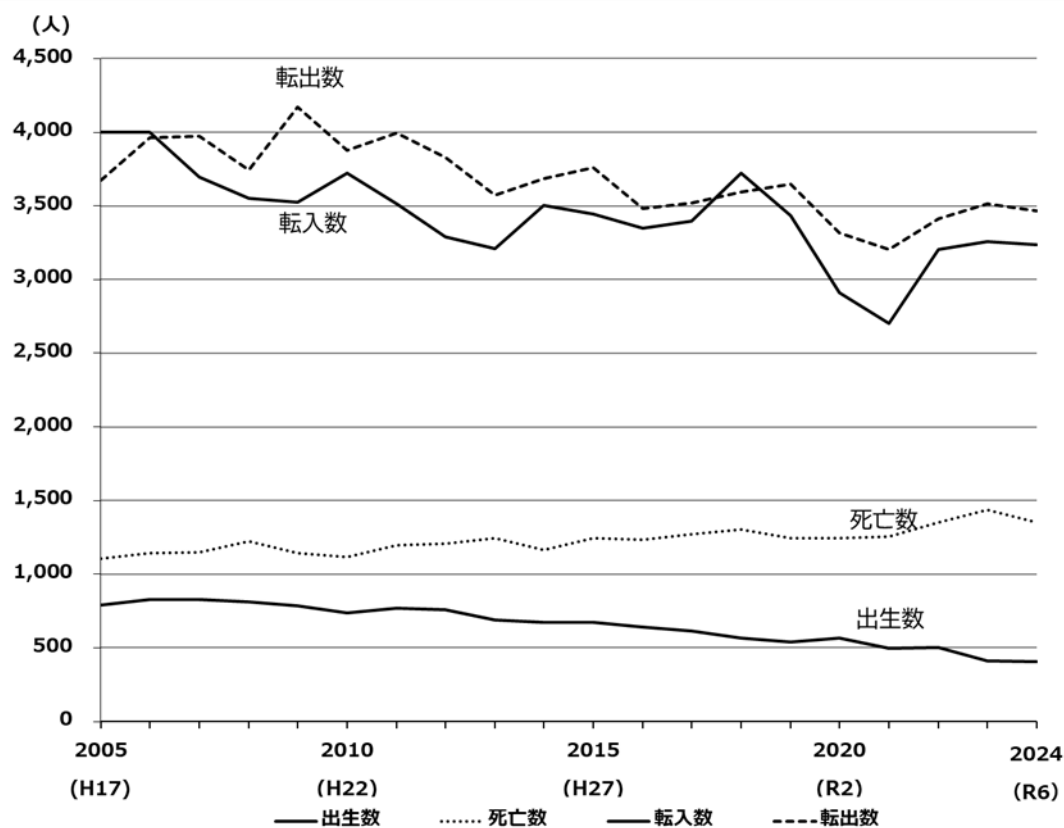
(2) 出生・死亡、転入・転出

図表5は、伊賀市の出生・死亡数及び転入・転出数の推移です。

出生数は減少傾向が続いている一方、死亡数は増加傾向が続いており、近年はその差が広がってきています。

また、ほとんどの年で転出が転入を上回っています。

図表5 出生・死亡数、転入・転出数の推移



※県統計課「月別人口調査」

図表6 近年の伊賀市の出生・死亡、転入・転出の推移（人）

	2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
出生	793	826	827	811	785	735	767	761	688	673	675	644	616	569	538	566	497	503	410	406
死亡	1,106	1,146	1,148	1,222	1,144	1,115	1,196	1,209	1,247	1,163	1,243	1,232	1,271	1,305	1,243	1,246	1,255	1,353	1,437	1,354
自然 動態	-313	-320	-321	-411	-359	-380	-429	-448	-559	-490	-568	-588	-655	-736	-705	-680	-758	-850	-1,027	-948
転入	4,000	4,000	3,695	3,552	3,525	3,723	3,512	3,291	3,209	3,504	3,445	3,374	3,399	3,722	3,435	2,911	2,702	3,203	3,259	3,239
転出	3,677	3,961	3,971	3,746	4,173	3,876	3,997	3,830	3,572	3,687	3,761	3,482	3,522	3,597	3,650	3,319	3,204	3,415	3,513	3,465
社会 動態	323	39	-276	-194	-648	-153	-485	-539	-363	-183	-316	-108	-123	125	-215	-408	-502	-212	-254	-226

※県統計課「月別人口調査」

※いずれも前年10月から当年9月までの数値

※転入は職権記載及び国籍取得等、転出は職権削除及び国籍喪失等を除く

(3) 人口ピラミッド

図表7は、合併後の2005（平成17）年と直近の2023（令和5）年の伊賀市の年齢階級別の人口構造の推移です。

高齢人口は増加しましたが、生産年齢人口と年少人口は減少し、人口ピラミッド全体の大きさが小さくなっていることがわかります。

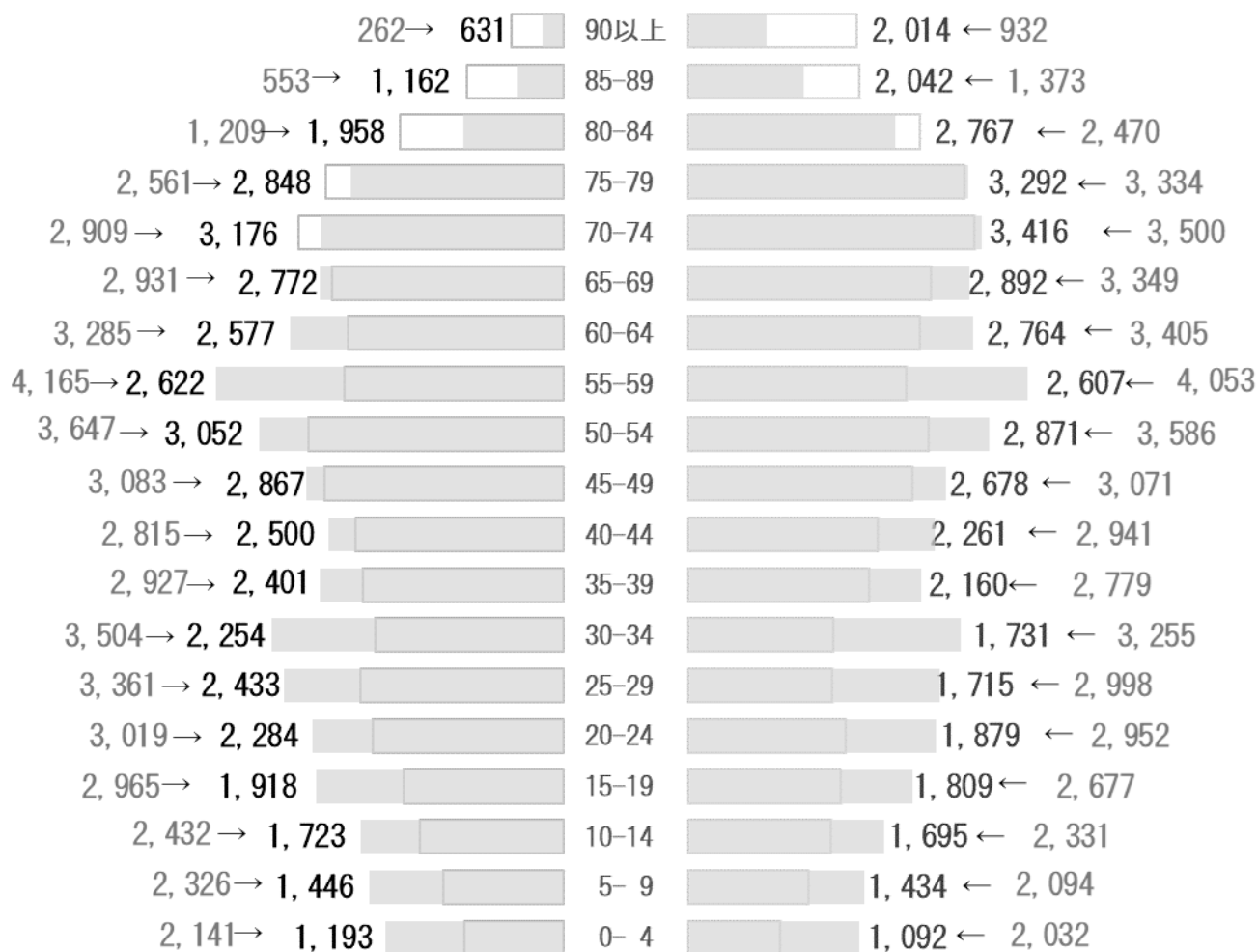
図表7 年齢階級別の人口構造の推移

2005（平成17）年 → 2024（令和6）年

103,227人 → 84,936人

□ 男

□ 女



(4) 人口移動

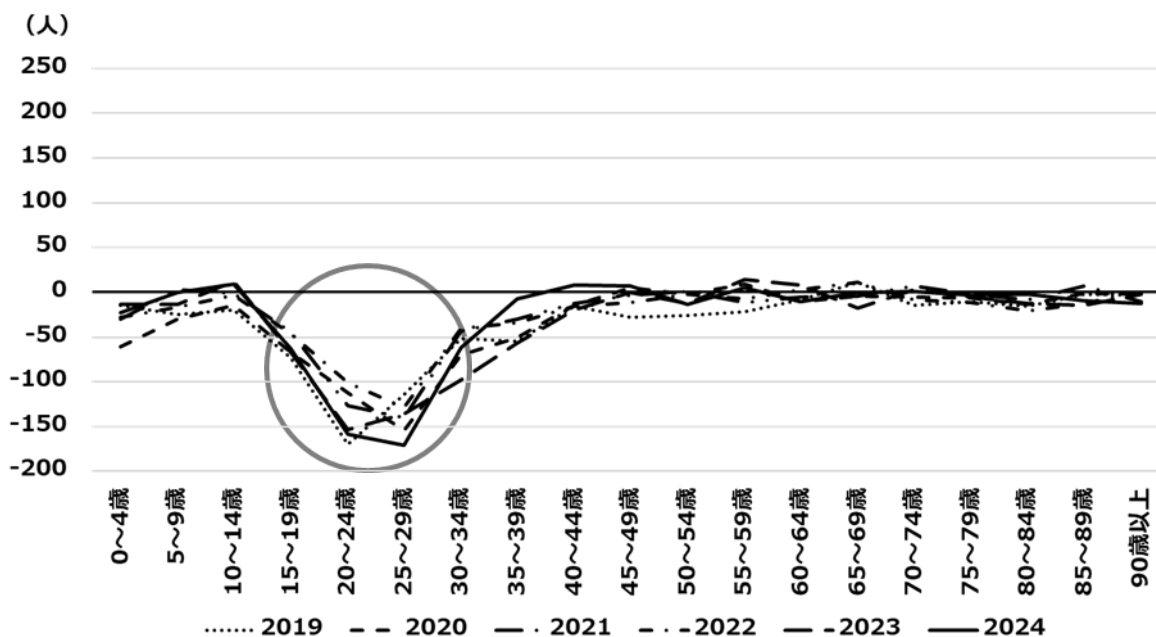
① 年齢階級別

図表8・9は、近年の伊賀市の人口移動を年齢階級別に見たものです。

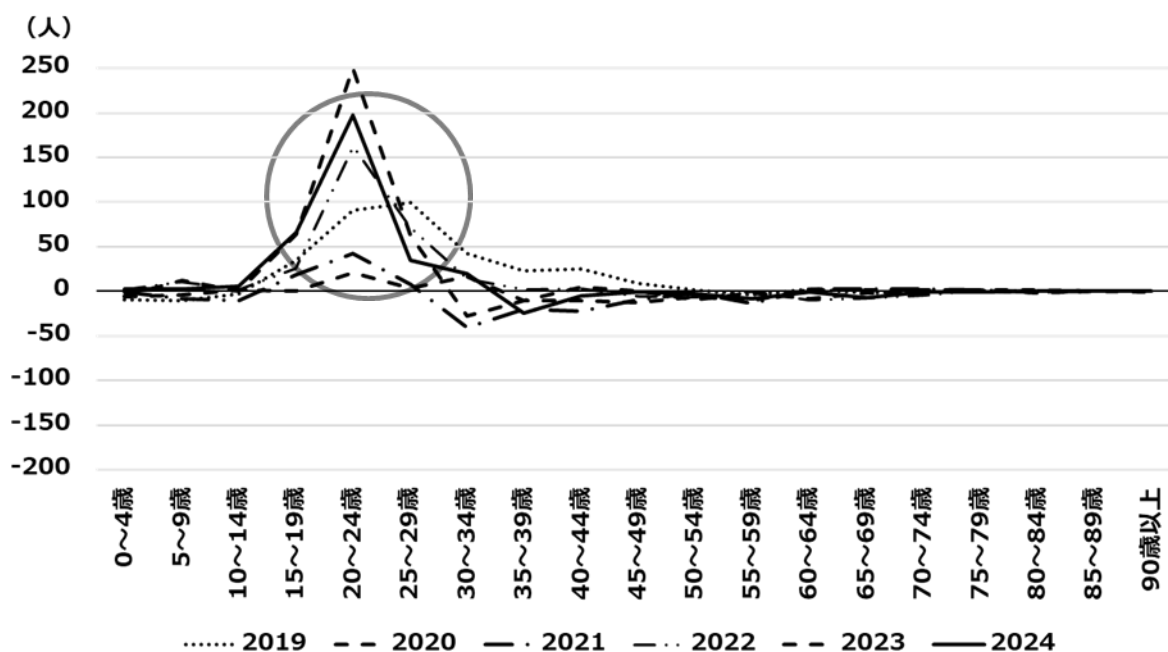
日本人の人口移動では、全体的に転出超過となっており、特に15歳から34歳にかけての転出超過が顕著です。

一方、外国人は全体的に転入超過となっており、特に15歳から34歳にかけての転入超過が顕著です。

図表8 年齢階級別の人口移動の状況（日本人）



図表9 年齢階級別の人口移動の状況（外国人）



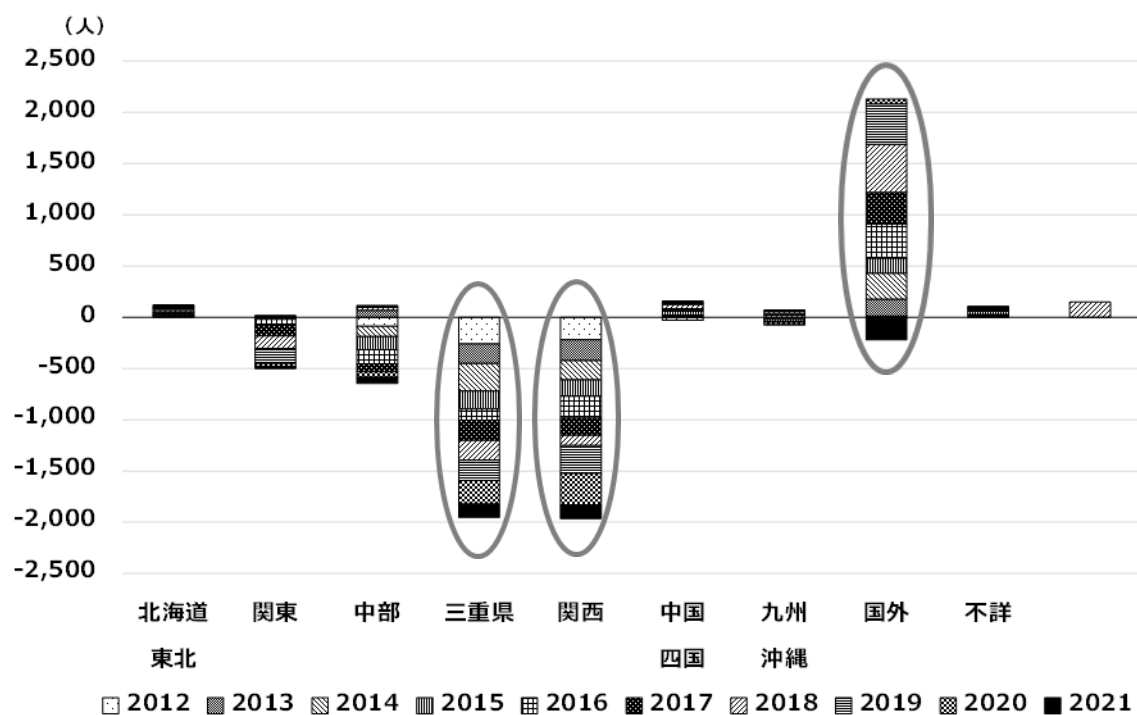
※住民基本台帳

② 地域ブロック別

図表10は、近年の伊賀市の人口移動を地域別に見たものです。

伊賀市からは、三重県内や関西圏への転出傾向が強くなっています。また、国外からの転入が多いことがもう一つの特徴です。

図表10 地域ブロック別の人口移動の状況



※住民基本台帳

※地域ブロック別の区分は下記のとおり

北海道・東北：北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

関東：茨木、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

中部：新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

関西：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

中国・四国：鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

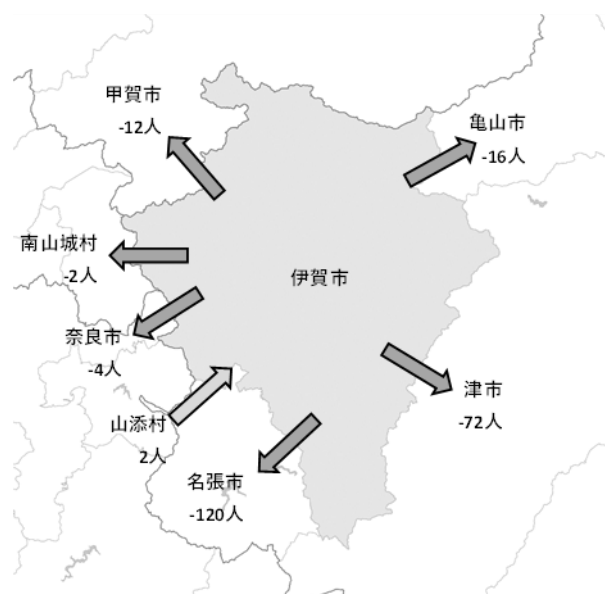
九州・沖縄：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

③ 近隣自治体との関係

図表11・12は、伊賀市と近隣自治体間の人口移動を示したものです。

名張市や津市への転出超過が顕著です。

図表11 2012（平成24）年 転入出の状況

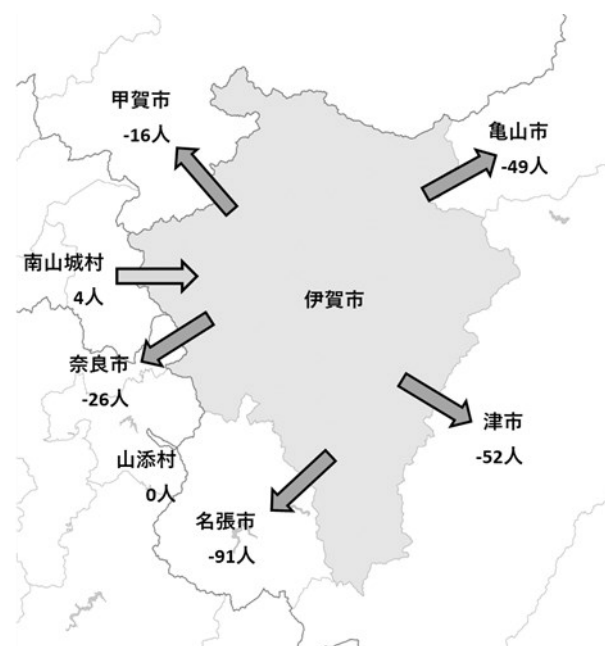


	転入	転出
津市	101	173
亀山市	34	50
名張市	291	411
甲賀市	42	54
南山城村	8	10
奈良市	51	55
山添村	11	9

【参考】

大阪府	310	482
愛知県	179	225
東京都	66	114

図表12 2023（令和5）年 転入出の状況



	転入	転出
津市	128	180
亀山市	33	82
名張市	205	296
甲賀市	42	58
南山城村	5	1
奈良市	24	50
山添村	2	2

【参考】

大阪府	354	516
愛知県	388	441
東京都	58	127

※住民基本台帳
※いずれも1月から12月までの数値

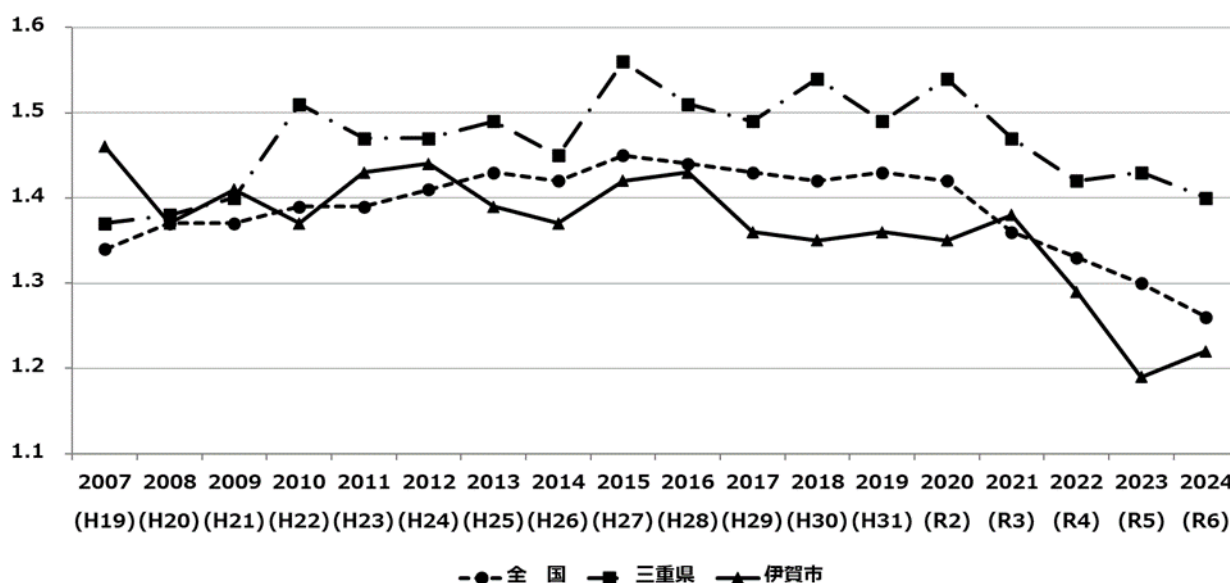
(5) 合計特殊出生率

図表13のとおり、合計特殊出生率の全国平均は、全体的に緩やかな上昇傾向でしたが、2015（平成27）年を境に低下傾向となっています。

伊賀市では、2021（令和3）年までは、概ね1.4程度で推移していましたが、2022（令和4）年以降は大幅に減少しており、2023（令和5）年は1.2を下回っています。

なお、市町村別の合計特殊出生率は標本数（出生数や死亡数）が少ないために、数値が不安定な動きを示すことがあります。人口置換水準（2.07）はもとより、国民の希望出生率（1.8）にも届いていません。

図表13 合計特殊出生率の推移



※三重県伊賀保健所年報

(6) 若年（20～39歳）人口

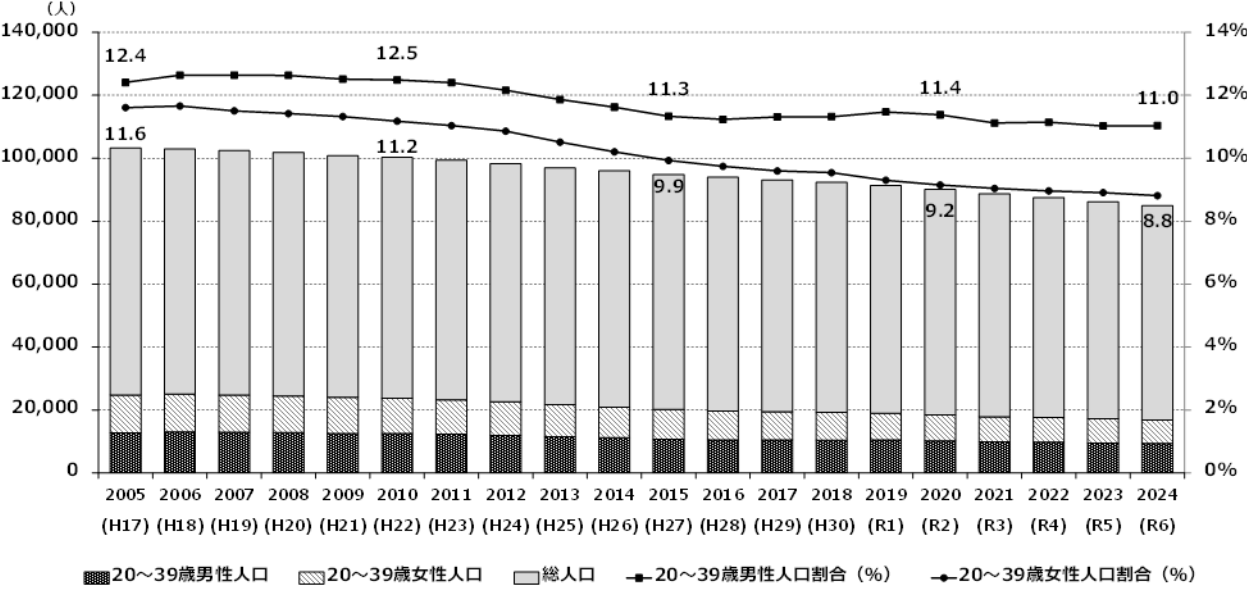
図表14は、伊賀市の若年人口（20～39歳）の推移です。

若年人口は、男女ともに減少傾向が続いています。

特に若年女性の割合は減少傾向が続いており、2024(令和6)年では若年男性は、若年女性より約1,900人多くなっています。

若年人口、特に若年女性の人口減少が、伊賀市の人口問題の大きな課題であることがうかがえます。

図表14 総人口に占める男女別若年（20～39歳）人口（推移）



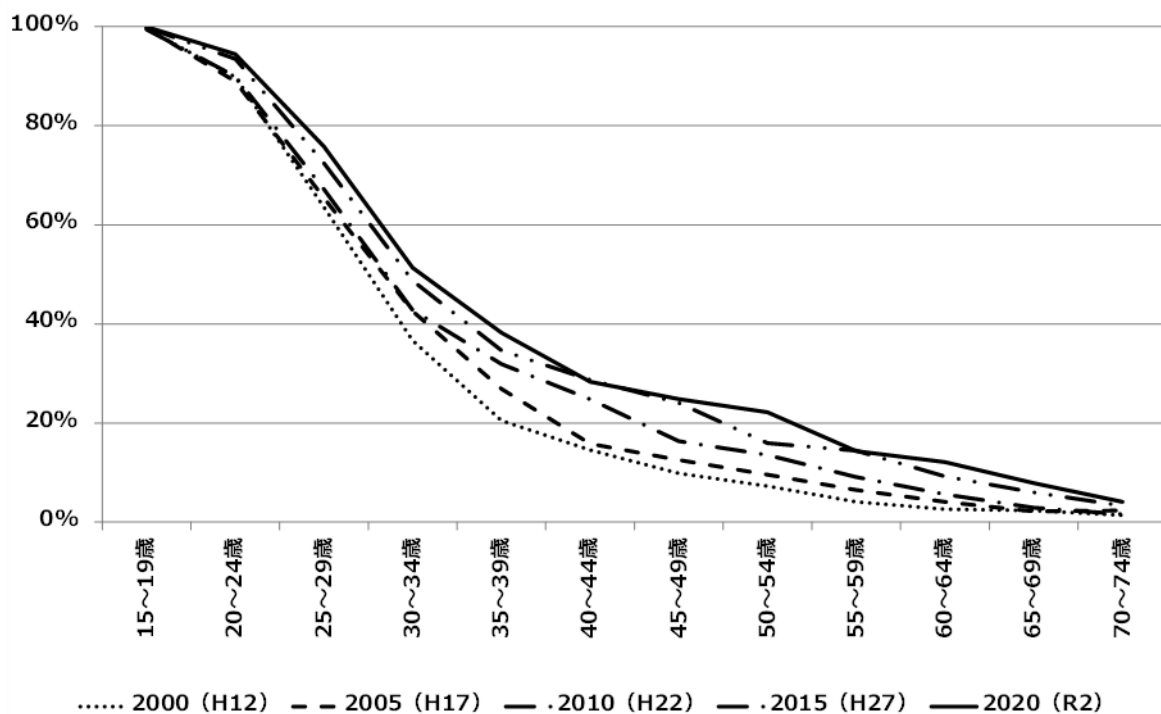
	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)	2024 (R6)
総人口	103,227人	100,288人	94,847人	90,097人	84,936人
若年男性 (20～39歳) 人口・割合	12,811人 (12.4%)	12,524人 (12.5%)	10,748人 (11.3%)	10,253人 (11.4%)	9,372人 (11.0%)
若年女性 (20～39歳) 人口・割合	11,984人 (11.6%)	11,209人 (11.2%)	9,418人 (9.9%)	8,244人 (9.2%)	7,485人 (8.8%)

※住民基本台帳

(7) 未婚率

図表15・16のとおり、伊賀市の未婚率は、男女ともに全年代において増加傾向にあります。特に、男性は35歳以降、女性は30歳～39歳の未婚率が増加しています。

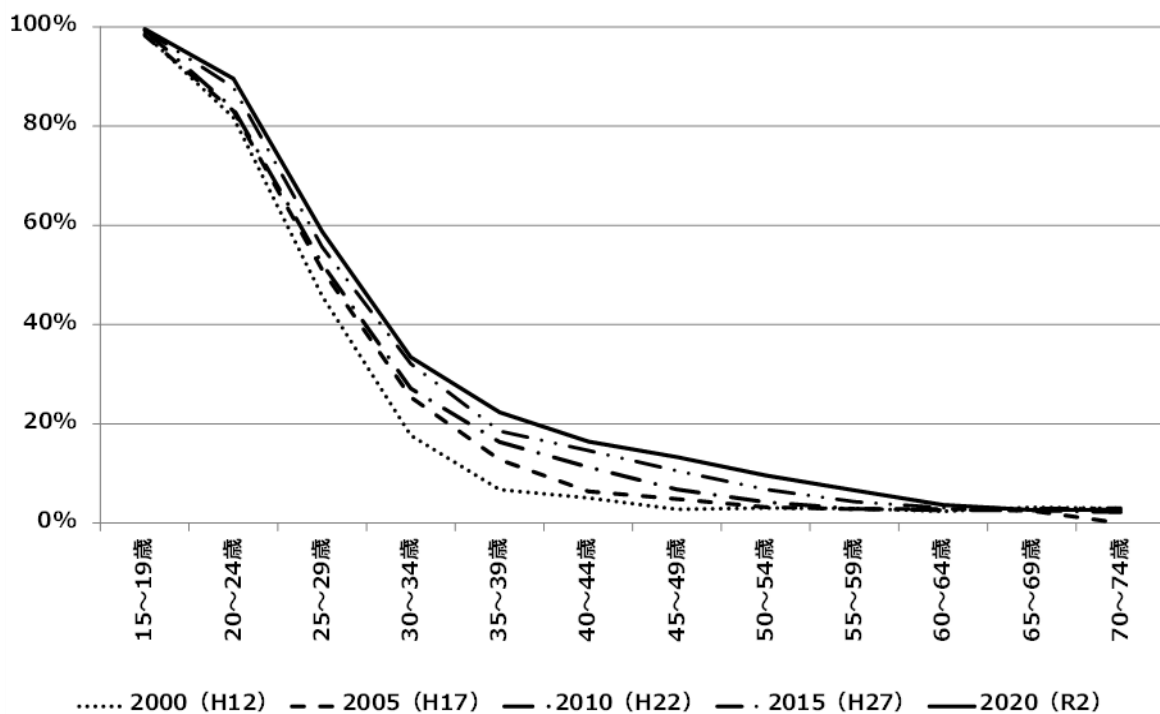
図表15 未婚率の推移(男性)



男性	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
2000 (H12)	99.53%	89.82%	63.54%	36.67%	20.48%	14.54%	9.84%	7.28%	4.07%	2.59%	2.35%	1.38%
2005 (H17)	99.67%	88.98%	65.42%	42.57%	26.87%	15.83%	12.55%	9.60%	6.50%	4.10%	2.18%	2.36%
2010 (H22)	99.41%	89.96%	67.18%	42.82%	31.91%	24.79%	16.33%	13.56%	9.09%	5.60%	2.91%	1.62%
2015 (H27)	99.82%	93.50%	72.44%	48.74%	34.65%	28.71%	24.04%	15.94%	14.42%	9.22%	6.00%	3.32%
2020 (R2)	99.95%	94.47%	75.82%	51.34%	38.23%	28.31%	24.84%	22.17%	14.35%	12.11%	7.87%	4.10%

※国勢調査

図表16 未婚率の推移(女性)



女性	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
2000	98.58%	81.74%	45.76%	17.64%	6.71%	5.04%	2.78%	3.04%	2.94%	2.37%	3.16%	2.93%
2005	98.24%	83.07%	51.06%	25.38%	12.78%	6.38%	4.82%	3.21%	2.80%	2.84%	2.45%	2.88%
2010	99.27%	83.52%	52.23%	27.11%	16.34%	11.26%	6.79%	4.20%	2.84%	2.57%	2.52%	2.19%
2015	99.38%	87.84%	55.63%	32.08%	18.54%	14.63%	10.51%	6.77%	4.33%	3.05%	2.94%	3.04%
2020	99.58%	89.56%	58.75%	33.42%	22.32%	16.41%	13.30%	9.59%	6.59%	3.65%	2.63%	2.68%

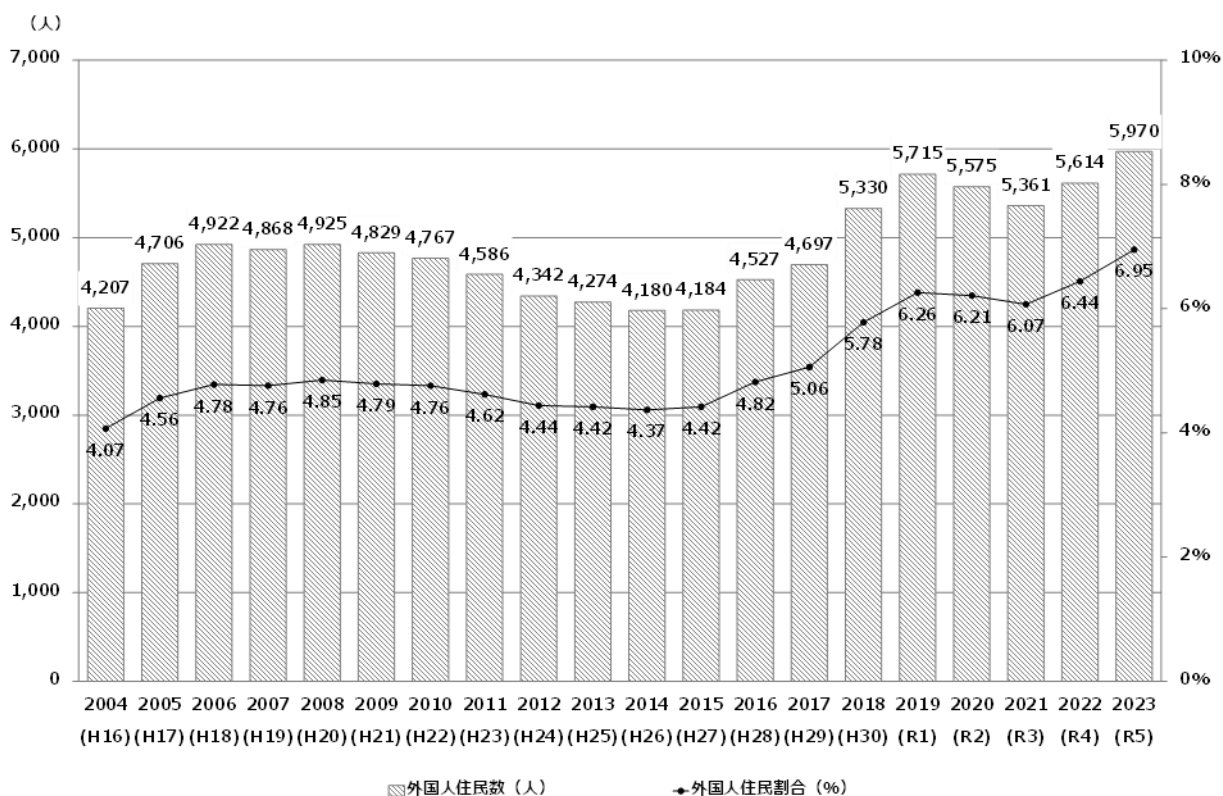
※国勢調査

(8) 外国人住民人口

図表17は、伊賀市の外国人住民数の推移を表しています。

総人口に占める外国人住民の割合は、三重県内でも高く、人口動向に与える影響も大きいと考えられます。

図表17 伊賀市の外国人住民数の推移



※県ダイバーシティ推進課「外国人住民数（外国人登録者数）」

図表18 外国人住民割合が上位の市町【三重県市町】（2023（令和5）年12月末）

順位	市町名	外国人割合（％）
1	木曽岬町	10.42
2	伊賀市	6.95
3	いなべ市	5.29
4	鈴鹿市	5.00
5	亀山市	4.85
参考	三重県	3.56

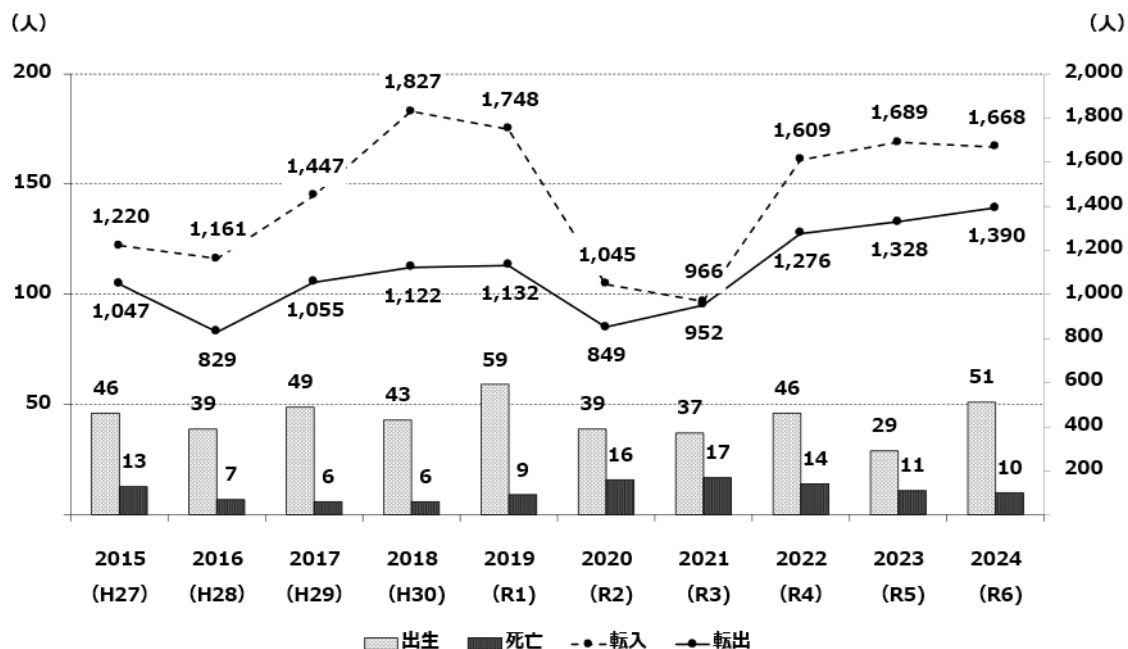
※県多文化共生課「外国人住民数（外国人登録者数）」

図表19は、外国人住民の人口動向の推移です。

自然増、社会増が続いていますが、2020（令和2）年、2021（令和3）年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、転入・転出ともに減少しています。

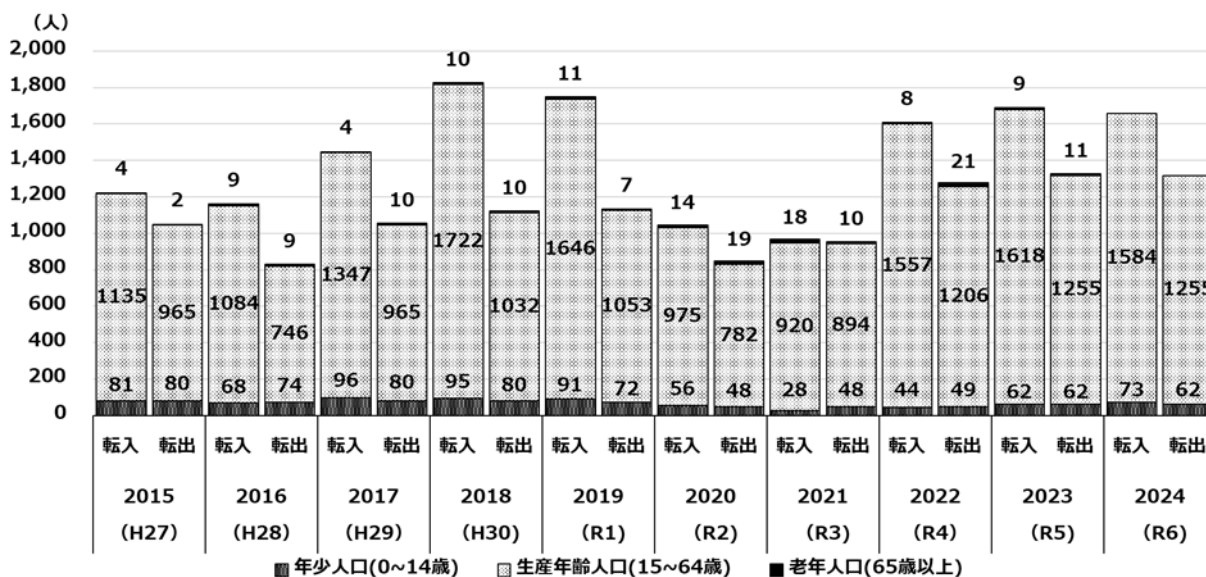
また、外国人住民の人口移動の大部分は、生産年齢人口が占めています。

図表19 外国人の人口増減



※住民基本台帳

図表20 年齢区分別の転入転出状況

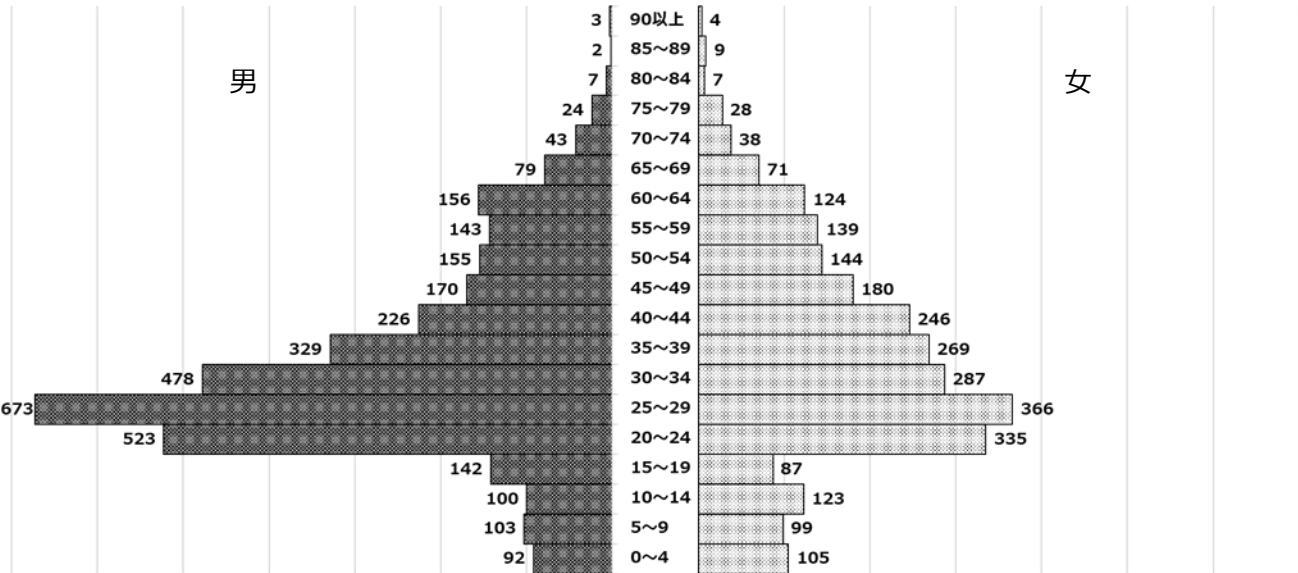


※住民基本台帳

図表21は、伊賀市の外国人住民の人口ピラミッドです。

生産年齢（15～64歳）人口が5,000人で、全外国人住民の85.1%を占めています。

図表21 外国人住民の人口ピラミッド（2024（令和6）年）



※住民基本台帳

外国人住民の年齢区分別人口割合は、若年人口（20～39歳）に占める外国人住民の割合が高く、女性のうち約17%、男性が約21%は外国人住民が占めています。

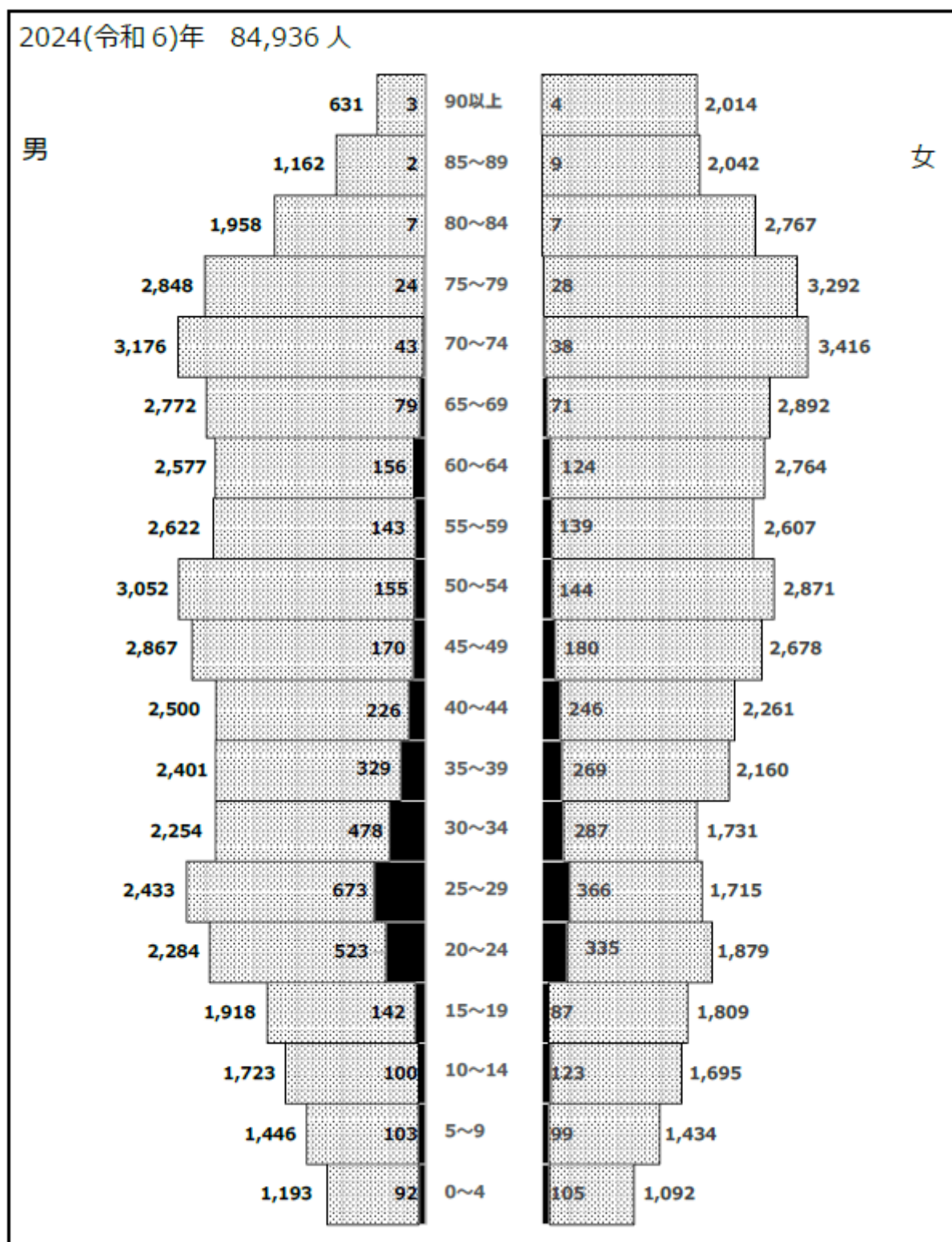
図表22 外国人住民の年齢区分別人口割合（2024（令和6）年9月末現在）

	人数（A）	割合	市総数（B）	市全体に占める割合（A／B）
外国人住民数	6,109人	—	84,936人	7.2%
年少人口（0～14歳）	622人	10.2%	8,583人	7.2%
生産年齢人口（15～64歳）	5,172人	84.7%	47,383人	10.9%
老年人口（65歳以上）	315人	5.1%	28,970人	1.1%
若年女性人口（20～39歳）	1,257人	20.6%	7,485人	16.8%
若年男性人口（20～39歳）	2,003人	32.8%	9,372人	21.4%

※住民基本台帳

図表23は、伊賀市の総人口と外国人住民人口を比較したピラミッドです。

図表23 2024（令和6）年の人口ピラミッドの比較（人）



※住民基本台帳

(9) 産業構造別人口

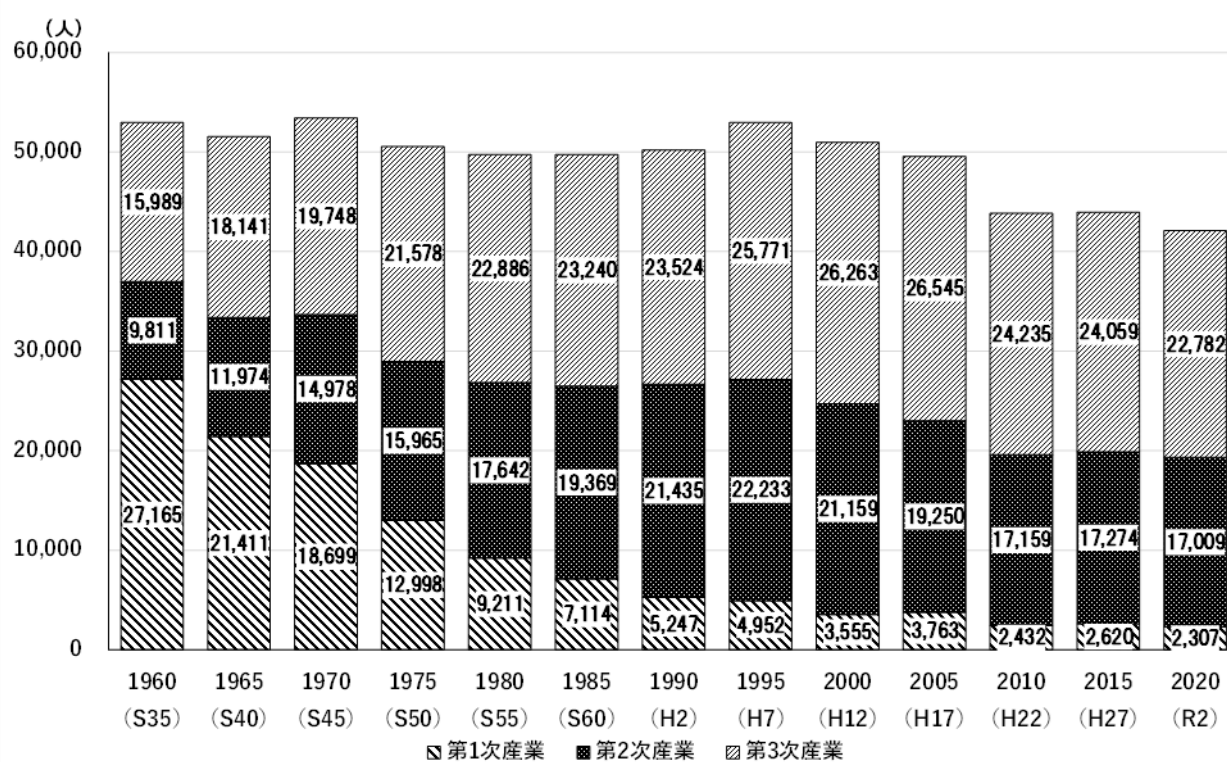
図表24は、参考構造別就業者数の推移です。

1960（昭和35）年から2020（令和2）年までの産業構造別就業者の推移をみると、1次産業の就業者数が60年で10分の1に減少しています。（約27,000人→2,300人）

就業者の総数も、減少傾向が続いています。

特に、リーマンショックの影響もあり、2005（平成17）年から2010（平成22）年にかけて就業者数は、約5,700人（11.6%）減少しました。

図表24 産業構造別就業者数（伊賀市：常在地）



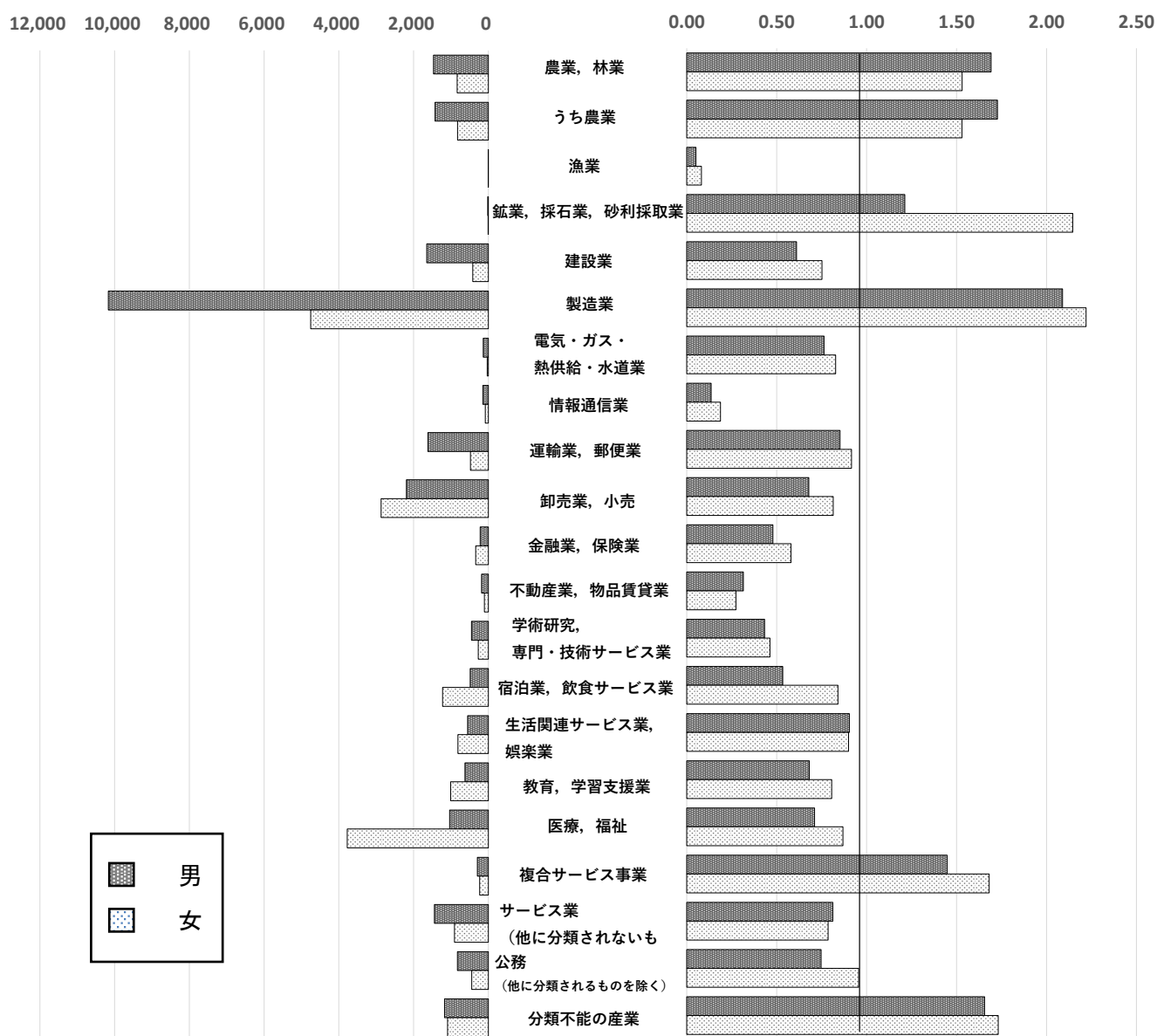
※三重県統計書・市町(村)累年統計表

図表25は、2020（令和2）年の各産業別人口の状況を表しています。

男女とも製造業の就業者が特に多く、次いで卸売業・小売業となっています。女性の就業者は医療・福祉が多い傾向にあります。

また、全国の就業者比率に対する特化係数※（本市のX産業の就業者比率／全国のX産業の就業者比率）は、「農業、林業」「製造業」が高い傾向にあります。

図表25 男女別産業別就業人口・特化係数



※令和2年国勢調査

※特化係数：地域のある産業が全国と比べてどれだけ特化しているかを見る係数。

特化係数が1を上回ると全国と比べてその産業の就業者が多いと言える。

(10) 通勤・通学流動

図表26は、通勤・通学による人口の流動の状況です。

通勤流動では、市内在住者の大半が市内で通勤しており、さらに名張市や奈良県からの通勤者も多いことから、6,817人の流入超過となっています。

一方、通学流動では、在住者の約66%が市外へ通学しており、743人の流出超過となっています。

図表26 2020（令和2）年通勤・通学流動の状況（15歳以上）

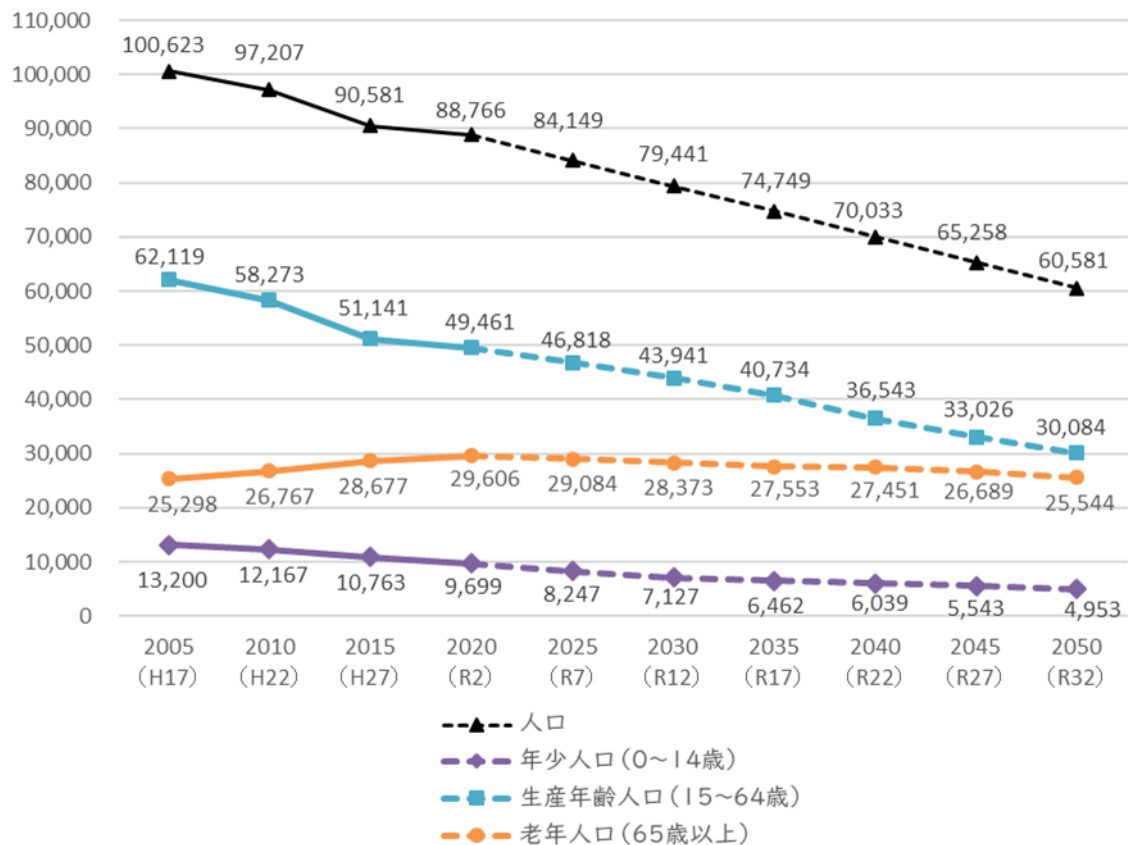
	通 勤	通 学
常伊 住賀 市に	36,177人	1,827人
流 入		
	12,806人	471人
流 出		
	5,989人	1,214人

※国勢調査（従業地・通学地「不詳」を除く）

第3章 伊賀市の人口展望

合併当初10万人を超えていた伊賀市の人口も、近年では毎年1,000人を超えるペースで減り続け、2020（令和2）年の国勢調査で88,766人、2024（令和6）年9月末現在の住民基本台帳では、84,936人にまで減少しています。2023（令和5）年12月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した将来推計人口では、伊賀市の人口は、2050（令和32）年には60,581人になると推計されています。

図表27 伊賀市の人口と将来推計（国勢調査と社人研推計による）



	実績値 ←				→ 推計値					
	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)	2025 (R7)	2030 (R12)	2035 (R17)	2040 (R22)	2045 (R27)	2050 (R32)
年少人口	13,200	12,167	10,763	9,699	8,247	7,127	6,462	6,039	5,543	4,953
生産年齢人口	62,119	58,273	51,141	49,461	46,818	43,941	40,734	36,543	33,026	30,084
老年人口	25,298	26,767	28,677	29,606	29,084	28,373	27,553	27,451	26,689	25,544
人口	100,623	97,207	90,581	88,766	84,149	79,441	74,749	70,033	65,258	60,581

※国勢調査及び「日本の地域別将来推計人口」（令和5（2023）年推計）

(1) 自然動態

伊賀市のこれまでの人口ビジョンでは、合計特殊出生率に着目し、自然動態を捕捉してきました。近年の合計特殊出生率は、1.3～1.4程度で推移していましたが、コロナ禍以降は1.2程度まで下落している状況です。（P11参照）この値は、人口置換水準（2.07）や国民の希望出生率（1.8）を大きく下回っています。

合計特殊出生率は、自然動態（出生数と死亡数）以外の要因にも左右されることなどから、今後の自然動態は、「出生数」に着目することとし、現時点では2024（令和6）年には406人（P4 図表6 参照）にまで減少しています。

図表28 自然動態の推移

単位：人

	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
出生数	566	497	503	410	406

【自然動態】 年間の出生数 400 人

(2) 社会動態

伊賀市の社会動態は、転出超過傾向が続いており、直近5年間の平均で約320人の転出超過になっています。このうち若年世代（15～49歳）の転出超過は234人で、全体のおよそ7割強を占めています。（P4 図表6・P6 図表8・9）

図表29 社会動態の推移

単位：人

	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	近5年 平均
若年世代の人口動向	-298	-422	-104	-187	-159	-234.0

【社会動態】 若年世代（15～49歳）の年間の転出超過 200 人

(3) 人口展望

(1) 自然動態では出生数、(2) 社会動態では若年世代の動向を注視しながら、5年後（2030年）、10年後（2035年）の伊賀市の将来人口を展望します。

【将来人口展望】

5年後 80,000 人

10年後 75,000 人